第1章　財務・会計とは

会計は、単に利益を計算するためのものではない。飛行機のコックピットの計器盤に例えられるように、会社がどの位置にいて、どこに向かって進んでいるのかを把握する道具であり、経営者はその道具を使うことで、会社を正しい方向に導くことができる。このため、経営者についてアドバイスをする立場にある中小企業診断士においては、会計を理解し、どのようにして数字が作られるのか、そこで算定される数字はどんな意味を持つのかといった知識が不可欠となる。本章では、その前提知識として、会計の種類と決算書の基本構造について確認する。

1　財務・会計とは

1　はじめに

財務・会計の学習領域は、会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）に分かれる。ここでは、財務・会計の科目を攻略するために必要な前提知識としてこれら２つの内容の概要について説明する。

2　会計（アカウンティング）とは　　重要度 B

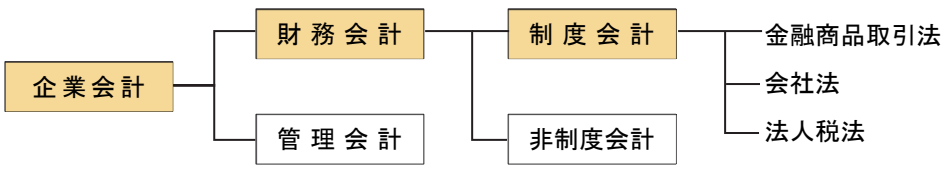
⑴　意義

会計には、家計や企業会計、国家の公会計などの種類があるが、中小企業診断士試験では、企業会計を指す。ここで、企業会計とは、企業の経済活動を記録、測定し伝達する手続きをいう。

⑵　種類

企業会計は、その伝達する相手により「財務会計」と「管理会計」に分類される。

【企業会計の種類】



3　財務会計　　重要度 B

⑴　意義

財務会計とは、企業外部の利害関係者に対し、企業の経営成績と財政状態及びキャッシュ・フローの状況を報告することを目的とする会計をいう。

財務会計では、外部利害関係者に対して報告するため、複式簿記により記帳され、一定のルール（会計基準など）に基づき、会計処理が行われる。

⑵　報告手段

報告手段は主として、損益計算書、貸借対照表及び株主資本等変動計算書等である。